+博論書式 3（論博書式 3）

2022 年 12 月 26 日

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分　　野	診療情報管理・分析学
学籍番号	20S3066	院生氏名	三重　和憲
通学キャンパス	東京赤坂キャンパス		
論　文　題　目	胎児発育不全（FGR）合併妊娠における早産をアウトカムとした周産期予後不良因子に関する研究		
審査結果（枠で囲む）	合格　　不合格		

＜審査結果の要旨＞

主論文研究概要は以下の通りである。

【研究意義・目的】胎児発育不全（FGR）合併妊娠について、早産をアウトカムとした多変量解析を行い、これまでほとんど定量化の行われてこなかった FGR の早産に対する予後不良因子のリスク値を、定量的に明らかにすることを目的とした。

【方法】日本産科婦人科学会データベースに登録され FGR と診断された63,602症例を対象とする後向きコホート研究であり、分析1と分析2からなる。分析1では早産（37 週未満）をアウトカムとする探索的二項ロジスティック回帰分析を行い、分析2では早産を3つに類型化（超早産：28 週未満，早期早産：28 週～34 週未満，後期早産：34 週～37 週未満）したアウトカムによる二項ロジスティック回帰分析を行った。

【結果・結論 】FGR 合併妊娠に関し、以下のことが明らかになった。

分析1：早産に関連する探索的二項ロジスティック回帰分析では 192 項目中 58 項目が有意に高いリスク値を示した。この中で発生頻度とオッズ比双方の値が高い妊娠高血圧症候群(HDP)を予後不良因子として傾向スコアを算出し、傾向スコアを組み入れたロジスティック回帰分析を行った。その結果、肺水腫 10.442、腟内胎胞形成 8.054、早発型 HDP 4.245、常位胎盤早期剥離 3.543、HELLP 症候群 3.451 など早産の高リスクとなる 18 項目、妊娠貧血 0.699、重症悪阻 0.684、軽症高血圧（症候） 0.624、遅発型 HDP0.521 など早産の低リスクとなる6項目、併せて 24 項目の疾患・症候が有意となり、予後不良因子のリスク値が定量的に得られた。

分析2：早産の各類型をアウトカムとしたロジスティック回帰分析では、オッズ比が高い順に、超早産においては腟内胎胞形成 9.663、早発型 HDP8.380、前置胎盤 3.718、臨床的絨毛膜羊膜炎(CAM)3.503、早期早産では急性脂肪肝 6.130、早発型 HDP6.051、後期早産では DVT3.029、切迫早産 2.346、HDP2.126 というように各類型により予後不良因子が定量的に異なることがわかった。

以上、FGR 合併妊娠における妊娠週数に応じた早産の予後不良因子のリスク値が定量的に得られた。

本研究は倫理的に問題なく、論証、論文形式は適切である。本研究の新規性は、これまでほとんど定量化されてこなかった FGR 合併妊娠における早産の予後不良因子のリスク値を、妊娠週数に応じて定量的に明らかにした点にある。本研究の成果により、FGR 症例における正確・迅速な早産予測が可能となり、医療機関内での診療科連携や高次医療施設への転院決定に役立つ情報提供ができるようになると考えられ、周産期医療における児の予後のさらなる改善に貢献する研究として高く評価できる。

審査会は、対面および書面（メール）で実施した。初回審査を 2022 年 11 月 29 日に赤坂キャンパスで対面実施し、口頭試問において適切に応答した。また、論文記載の不十分な点について複数の修正を求めたところ適切に修正された。

以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士（診療情報管理学）の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。

論文審査担当者	主　査　　藤井　知行
	副　査　　稲垣　誠一
	副　査　　杉原　素子